

●対談コーナー

若手PTの方が思うこと、目指すことを、伺いました。

理学療法士(2年目) **宮崎緑**さん × 参議院議員 **小川克巳**

小川 宮崎さんは一般の大学を卒業され、7年間民間企業でお勤めになった後、理学療法士になられた。なぜ理学療法士になろうと思ったのですか？

宮崎 民間企業に在職中、リハビリを受けることになり、理学療法士という職を知りました。全く動かなくなった自分の体が動くようになった、治るんだということがすごく感動的だった。治っていく過程に私自身びっくりして、自分の体のことを何も知らないのだ、と。今後、ずっと続けられる仕事をしたいと思った時に、まずは自分の体のことをしっかり知りたかったことと、治る感動が忘れられなかったことが、理学療法士になった動機です。



小川 宮崎さんは社会人を経験してから理学療法士になられたわけですが、現役でストレートにきた人たちと比べると、見方が違うことがあるのではないですか？同級生から教わったり、逆に教えたり、というようなことはありますか？

宮崎 同級生が持っている熱意と、何事にもチャレンジしていく気持ちは、とても勉強になります。一方で、社会人を経験したことに関係するかどうか分かりませんが、給料をもらっていることに対する責任、仕事に対して責任を持たなくてはいけない、ということをお伝えしたいと思う事はあります。 《続く》



対談の全文は、小川克巳のホームページに掲載しています。是非ご一読ください。 <http://ogawa-katsumi.com/>

一億総活躍推進本部開催

自由民主党本部にて「一億総活躍推進本部 IOHH 活用健康寿命革命プロジェクトチーム会議」が開催されました。私はプロジェクトチームの主査を勤めています。当日は、関係団体からのヒアリングが行われ、日本理学療法士協会半田一登会長にお越しいただきました。

本プロジェクトチームは、少子高齢社会への対応として政府が強力に推進している「一億総活躍プラン」の具体的戦略を練るために設置されたプロジェクト

IOHH: Internet of Human Health. 健康寿命を革命的に延伸することを目的に、IoTなどを活用して人の健康状態をオンタイムで可視化し、「未病」段階で然るべき対応をしようとする考え方です。

であり、その一環として関係団体からのヒアリングを経て、健康寿命革命の方策を検討しようとするものです。

「ふるさと対話集会」レポート

岡山県、静岡県にて「ふるさと対話集会」を開催しました。それぞれ橋本岳厚労働副大臣、逢沢一郎衆議院議員、城内実衆議院議員に講師としてお越しいただきました。政府が掲げる“自立支援”を実現する上で、リハ専門職に期待される役割についてなど、出席者

の皆さまと国会議員の間で、活発な意見交換がなされました。

これまで埼玉、岩手、岡山、静岡にて「ふるさと対話集会」を開催しました。参加者の皆さまと膝をつき合わせて、じっくりと議論することができる、貴重な機会です。今後も全国各地で「ふるさと対話集会」を開催していきたいと思っておりますので、皆さまのお近くで開催される際は、是非ご参加ください！

ふるさと対話集会とは？

「ふるさと対話集会」とは、自民党所属国会議員が国民の意見や考えを伺うことを目的に、自民党が実施している「座談会・ミニ集会」です。少人数の参加者が、政策要望や社会的な関心事など、さまざまなテーマについて国会議員と忌憚なく意見を交わすことを目的とした集会です。



参議院議員 **小川克巳事務所** (自由民主党 参議院比例区)

【国会事務所】 東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館405号室

〒100-8962 TEL:03-6550-0405 FAX:03-6551-0405

ホームページ <http://ogawa-katsumi.com/> Facebook <http://www.facebook.com/ogawakatsu3/>

皆様の声をお聞かせください！ ホームページで随時ご意見を募集しています



ホームページ



Facebook



日々是国会？

ほんの数日前まで淡いピンクに染め上げられていた桜並木も日に日に若葉の新緑に変わっていく中で、6月18日まで150日間の会期により1月20日に開幕した第193回通常国会も折り返し点を過ぎました。春の嵐に眠りを妨げられて目覚めた未明、ぼんやりした頭で一番に思うのはいつも国会スケジュール。

私が所属する厚生労働委員会では、ようやく3本目の精神障害者福祉法改正案審議が山場を迎えているところです。この改正案の趣旨は精神科医療の役割を確認すること、そして精神障害、



特に措置入院者の社会復帰に向けて継続的な支援を行おうとするものです。精神障害に対する一般の理解は身体障害に比して殆ど進んでいません。様々な場面で有形無形のいわれなき差別を受けることの多い障害ですが、リハビリテーションの一翼を担う者として、率先して誤解や偏見を払拭してもらおうよう働きかけなければと思います。

さて、これからの国会日程後半戦、

まだまだ重要法案がズラリと…。すべてはニッポン一億総活躍プランの実現に向けての法案審議ですが、意外に難航しそうな受動喫煙防止法案。国民の8割強が非喫煙者であることを思えば、どう処理するのがベストなのか自明の理、しかし、なかなかそう簡単にはいかないのが世の常。皆さんはどう考えますか？

女性医療職エンパワメント推進議連設立



超党派議員による「女性医療職エンパワメント推進議員連盟」が設立されました。会長は衆議院議員野田聖子先生、私は幹事として関わることになりました。

本会は、生涯に渡る就業モデルとなり得る女性医療職への効果的なエンパワメント推進を主なテーマ

とし、人生各期で大きく変化する女性特有の心身社会的な健康問題にも着目した制度整備を行うことを目的に、設立されたものです。

設立総会には、日本理学療法士連盟から谷口千明女性部長が出席、「女性理学療法士の労働及び健康」というテーマで発言をされました。

他の医療専門職と連携し、全体の約4割を占める女性理学療法士がますます活躍することで、ひいては国民全体が健康的で安心、安全な生活を送ることができる環境作りに寄与することを目指します。

参議院厚労委員会報告

今国会には、介護保険法改正法案、医療法改正法案、精神障害者福祉法改正法案、受動喫煙防止法案など、広義にリハ職にも関わる重要な法案が幾つか提出される予定です。

既に参議院で審議入りした法案のうち、「雇用保険法改正案」に対する質疑に立ちました。育児・介護休業に絡み、潜在的専門職の活用に向け、職能団体との連携をどのように進めるかを問い、官民が協力して諸課題の解決に当たり、改革を進めることが重要だという政府の認識を確認することができました。



○参議院インターネット審議中継○

<http://www.webtv.sangiin.go.jp/webtv/index.php>